

令和5年度学校関係者評価

吉川中学校

スローガン

笑顔で会える学校

ともに育つ地域・校種間連携

双方向な家庭とのかかわり

めざす子ども像

- 【自律】自ら考え、判断し、行動する
- 【思いやり】まわりの人を大切にする
- 【柔軟】変化に柔軟に対応する

教育目標

自らの道を、自信を持って
切り拓くことのできる生徒の育成

学びあう学校

- ・多様な学びを促進する授業づくり
- ・基礎学力定着のためのシステム作り

高めあう学校

- ・一致した方針のもとでのきめ細やかな指導
- ・生徒をエンパワーし、いじめを許さない

地域に愛され、前向きで安心できる学校

- ・安全で規律ある雰囲気づくり
- ・学ぶ意欲を引き出す学習環境
- ・危機管理の徹底（報告・連絡・相談・点検の徹底）

令和5年度 吉川中学校の教育方針 及び 主な取組み

1 スローガン 「笑顔で会える学校」

- 2 めざす子ども像
- 【自律】 自ら考え、判断し、行動する
 - 【思いやり】 まわりの人を大切にす
 - 【柔軟】 変化に柔軟に対応する

3 教育目標

自らの道を、自信を持って切り拓くことのできる生徒の育成

4 主な取組み

(1) 学びあう学校

1. 多様な学びを促進する授業づくり

- ①「授業づくり」に対する教職員の意識や気運を高める。
 - ・スクールエンパワーメント推進事業に取り組む。
 - ＊主体的・対話的で深い学びを育む授業の研究を進める。
 - ＊ユニバーサルデザインを意識した授業の研究を進める。
- ②学力向上に向け、以下のことに取り組む。
 - ・校内研究テーマを設定し、全教科において積極的に研究授業に取り組むなど授業力の向上に努め、生徒の学力向上や進路の幅の拡大を図る(上記スクールエンパワーメント推進事業をうまく活用する)。
 - ・一人一台タブレットを積極的に活用する。情報処理能力の育成にとどまらず、情報活用能力の育成を図る。
 - ・生徒による授業アンケートを実施する。
 - ・府、全国、諸団体等や町の読書感想文等のコンクールに積極的に応募・参加する。
- ③支援教育、通常の学級に在籍する支援の必要な生徒への支援、通級指導の充実を図る。
 - ・個別の指導計画を保護者とともに作成し、保護者との意思疎通を十分に図る。
 - ・一人ひとりの進路選択を保障することを大切に、支援学級での指導方法や通常学級での指導方法について、全教員で研究する。
 - ・小中、中高連携を積極的に推進するため、進路先や校区内の小学校等に訪問を行う。
- ④より豊かな教育の推進のための小中一貫教育の研究を推進する。
- ⑤新学習指導要領の円滑な実施に向けた年間指導計画を作成、実施していく。
- ⑥目標に準拠した評価の在り方を継続的に研究し、生徒の意欲を高める指導と評価の一体化を進める。

2. 基礎学力定着のためのシステム

- ①指導方法の工夫改善加配(数学1、英語1、理科1)を最大限活用し、学力向上のために、数学と英語科においては、習熟度別指導やティームティーチング(TT)を、理科においてはティームティーチング(TT)を、生徒に実態に応じて効果的に実施する。
- ②自学自習力の向上のため、放課後授業(まなび舎)を定期テスト前などに行う。
- ③家庭への積極的な情報提供を行い、家庭と連携を図った基礎学力の定着をめざす。

(2) 高めあう学校

1. 一致した方針のもとでのきめ細やかな指導

- ①肯定的な子ども観を持ち、学級集団の状況を把握し、生徒の行動の背景を知ることが大切を指導にあたる。
- ②生徒に関する情報を共有し、取組みのためのコーディネート機能を充実させる。
- ③生徒に「意味のあるルール」を徹底する。
- ④不登校を減らし、いじめの早期発見、早期解決を目指す。
 - ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど、専門家や外部関係団体との連携を進める。

- ・学校生活・いじめ等アンケートを学期に1回実施する。
- ・生徒指導主事と児童・生徒支援コーディネーターは常に連携し、そして各学年団と連携し、学年ごとの課題や学校の課題を整理し、具体策を、管理職、首席、学年生徒指導担当、学級担任、学年団など、学校総体で取り組み、早期解決を図る。

2. 生徒をエンパワーし、いじめを許さない集団づくり

- ①いじめを許さない集団づくりをめざす。
 - ・道徳、総合的な学習の時間、学活などを通して、体験的取り組みを創造するとともに、各種行事で集団づくりをめざす。
- ②部活動指導においては、クラブ活動運営方針のもと、明確な目標を設定し、指導を行う。
- ③生徒会等、生徒代表者と学校協議会やPTA役員との意見交流会を行い、課題解決に向けて生徒や保護者、地域と連携して取組みを進める。
- ④生徒のコミュニケーション力や社会性を高める機会を設ける。
 - ・3年:修学旅行、進路相談 2年:職場体験学習、宿泊学習 1年:福祉体験、校外学習
 - ・小中交流、保幼中交流など異校種間交流
 - ・ふれあいのつどい
 - ・スマホ教室

(3) 地域に愛され、前向きで安心できる学校

1. 安全で規律ある雰囲気づくり

- ①「とよの授業スタンダード」をもとに、学習規律(集団で学習するためのルールやマナー)を大切に授業づくりに努める。
- ②学校のルールについて、年度当初に生徒と確認し、教職員で足並みをそろえて指導にあたる。また、常に生徒の現状や時代の流れに則したルールになっているかなど、生徒とともに点検し、必要に応じて修正も行う。
- ③PTA、学校協議会、地域の諸会議時に、学校のルールや現状の情報発信を行い、保護者や地域の方々にも協力を願う。
- ④防犯教室や避難訓練など、複数回実施し、非常時の対応力育成に取り組む。

2. 学ぶ意欲を引き出す学習環境

- ①掲示物や作品展示など、生徒の意欲を引き出す工夫を絶えず行う。
- ②支援が必要な生徒など、特別なニーズのある生徒に対しては、保護者や本人の要望等を十分に受け止めての環境整備を行う。
- ③校内の環境を常に清潔かつ安全な状態にする。

3. 危機管理の徹底(報告・連絡・相談・点検の徹底)。

- ①コンプライアンスの徹底を図る
- ②学校事故防止のため、日常の安全点検、報告・連絡・相談を行う。
- ③学校情報の透明化を図り、積極的な発信に努める。
- ④学校文書、諸経費等は、複数の担当で管理・点検を行い、PTAや教育委員会の監査を受ける。

4. 誇りと責任感に根ざす学校風土の醸成

前向きで活動的な学校文化を支えるために、教職員間で学校に対する誇りと取組みに対する責任感、使命感が共有していくことを大切にしていく。

5. 可能性をのばす幅広い教育活動

学校行事や部活動、委員会活動や地域とも連携した取組みなどにも注力し、生徒の可能性を伸ばしていく。特に生徒会活動の活性化には注力し、生徒には、あらゆる学校での活動や決まり事などを「自分たち事」として意識させ、「自分たちの生活を自分たちでよりよいものにしていく」という意識を持たせるよう指導していく。

(4) ともに育つ地域・校種間連携

1. 多様な資源を生かした地域連携と地域に信頼される学校づくり

- ①地域等のボランティアと PTA の支援を積極的に活用して、学力向上や学習の充実、さらには部活動の充実などに取り組む。
- ②公開授業を実施する。(10月26日、27日実施予定)
- ③学校協議会では、学校が保護者や地域住民等の信頼にこたえ、家庭や地域と連携・協力し、一体となって生徒の健やかな成長を図るために、様々な視点の幅広い意見を求めるとともに、学校関係者評価に取り組む。

2. 明確な目的を持った校種間連携

令和8年度の義務教育学校開校を見据え、子どもの育ちという視点や学びの連続性といった視点からの小学校との連携がたいへん重要となる。小中連携を積極的に進めていく。

(5) 双方向な家庭とのかかわり

1. 家庭とのパートナーシップの推進

家庭とのパートナーシップを推進するためには、次のようなことを大切にしていく。

- 生徒の家庭背景をできるだけ把握することに努める。
- 保護者の生活や子どもへの思いを知り、信頼関係をつくっていく。
- 保護者の抱えるしんどさや、悩みに耳を傾ける。
- 保護者とともに子どもを育てるという姿勢を持つ。

2. 学習習慣の形成を促す働きかけ

学校だよりや学級・学年通信などの活用や、家庭訪問や懇談の機会を生かし、家庭での学習習慣形成に向けては、保護者の協力をお願いしていく。

また、携帯電話やスマホなどの使い方は、多くの生徒の生活習慣に影響があるので、その使い方についても保護者とともに考えていく。生徒会を中心に、生徒たち自身にも考えさせていく。

次ページからの「評価表」について

- P2からの「令和5年度 吉川中学校の教育方針 及び 主な取組み」の「4 主な取組み」の項目ごとに「計画」「取組」「評価」「学校協議会委員評価」について記す。
- 「計画」並びに「取組」については、今年度末において評価の対象とし、その評価を次年度以降の取組みに生かしていくものに絞って記載する。その「計画」「取組」について学校として評価し、学校協議会委員にも評価をいただいている。
- 「評価」は学校による自己評価である。11月実施の「学校教育自己診断アンケート」の結果をもとに、「生徒の評価」、「保護者の評価」「総括的」の3つに分けて記す。
- 「評価」における数値（アンケートの結果数値）は、(R3年度、R4年度、R5年度)の順で記しており、どの項目も毎年肯定的評価(A+B)がほぼ90%以上を占めるので、ここでは肯定(A)評価の割合を載せている。学校教育自己診断アンケートは、4段階(A:当てはまる、B:やや当てはまる、C:あまり当てはまらない、D:当てはまらない)で回答いただいている。
- 「学校協議会委員評価」を学校関係者評価としている。「○」は高評価、「●」は今後の課題、「☆」については提言いただいた内容である。

1 学びあう学校

<p>計 画</p>	<p>1. 多様な学びを促進する授業づくり</p> <p>①スクールエンパワーメント推進事業に取り組み、主体的・対話的で深い学びを育み、またユニバーサルデザインを意識した授業づくりを研究し、進める（わかる授業の創造）。</p> <p>②支援学級、通常の学級に在籍する支援の必要な生徒への支援、通級指導の充実を図る。</p> <p>③より豊かな教育の推進のために小中一貫教育の研究を推進する。</p> <p>2. 基礎学力の定着のためのシステム</p> <p>①学力向上に努めるために配置された加配教員（少人数加配で数1，理1、英語コーディネーター〔以下、英語 Co〕加配で英1）を最大限活用し、数学科と理科と英語科において少人数指導やティーミング（TT）による指導を生徒の実態に応じて効果的に実施する。</p> <p>②自学自習力の向上のため、放課後授業（まなび舎）を定期テスト前に行う。また、家庭と連携を図った基礎学力の定着をめざす。</p>
<p>取 組</p>	<p>1の①</p> <p>今年度も大阪府教育庁の「スクールエンパワーメント（SE）推進事業」を受け、研究を進めた。定期的（原則毎週火曜日の5時間目）に校内研修推進委員会（管理職、首席、児童生徒支援コーディネーター、本事業担当者、校内研修担当者）の会議を持ち、今年度の取組みを計画し、進めていった。今年度も生徒につけたい力として、「相手に自分の考え・思いが伝わるように表現する力」「構成を工夫して分かりやすく表現する力」を昨年度に引き続いて掲げ、今年度も全教員を6グループの小グループに分け、グループごとにつけたい力をより焦点化するための「こだわりポイント」を設定し、わかる授業の創造に向けて研究を進めた。相互参観週間を年間に3回、校内研究授業を6回実施することができた。教科の枠を越えた研究となり、前向きな雰囲気での授業改善に向けた取組みとなった。</p> <p>1の②</p> <p>今年度は、昨年度後半からの府教育庁、町教委の指導のもと「支援教育のあり方の見直し」「学びの場の検討」を行った結果、支援学級は2学級となった。その分通級指導の対象となる生徒が増えた。保護者との連携を大切に考え、できるだけ連絡を密にし、保護者の方の思いも大事にした。教職員間でも情報交換を密にし、全教職員で支援にあたる体制を意識し進めてきた。特に通級指導の対象生徒が増えたこともあり、通級指導担当教員だけでは対応できないと考え、全教職員でそのサポートを行う体制を整備した。定期的（原則毎週金曜日の4時間目）に担当者会議を開き、情報交換と支援の方策を検討することにも注力した。</p> <p>1の③</p> <p>小中のスムーズな連携に向け、新1年生対象の体験入学を実施したり、本校教員が小学校に出向き、小学校での生活の様子を見学したりするなど、入学に向けてのハードルを低くすることに努めた。体験入学では生徒会役員が寸劇を行ったり、パワーポイントを活用したりして中学校生活を分かりやすく説明し、楽しく希望の持てる説明会となるよう工夫を凝らした。体験授業を担当した教員も、中学校らしい専門性を感じさせる、子どもたちの興味の湧く授業を行った。また、吉中校区の教職員全員での研修会を2回開くことができた。令和8年度開校の義務教育学校での学校教育目標について議論を重ねた。</p> <p>2の①</p> <p>今年度は少人数指導で数学（1名）と理科（1名）で加配教員が配置された。数学では主に習熟度別による指導を、理科ではTT授業（2人体制での授業）を実施し、また英語 Co が配置された英語では、単元によって習熟度指導や、また英語 Co による模範授業等も行い、きめ細やかな指導に注力した。その成果もあり、大阪府チャレンジテストなどでも好成績であった。理科でTTを実施したことで、実験等でスムーズな授業展開が可能になり、またTTを組んだので若手教員をベテラン教員が指導する機会を増やすことにもつながった。</p> <p>2の②</p> <p>今年度も放課後授業（まなび舎）も定期考査前には実施した。加えて、教科によってはテスト前の補充学習等も行い、生徒が学びに向かう環境づくりに努めた。家庭の協力も大きく、家庭での学習により基礎学力の定着が進んだ。</p>

評 価	<p>【生徒の評価】 ※（R3年度、R4年度、R5年度）の肯定（A）評価の割合</p> <p>R5年度学校教育自己診断の学びに関する項目の結果によると、「好きな授業がある」（73.8% 62.2% 67.4%）「授業をわかりやすくしようとしている」（69.5% 62.2% 68.9%）「少人数授業は分かりやすい」（69.5% 65.8% 72.0%）と、昨年度に比べ上昇している。昨年度この3項目とも低下したので、今年度は「わかりやすい授業の創造」をテーマにSE事業等を活用して取り組んだ成果ととらえたい。ただ「朝の読書は落ち着いて読書のできる時間」（59.6% 59.9% 52.8%）は、少し低下している。次年度から光風台小学校に移転することもあり、より朝から落ち着いて取り組める雰囲気づくりに注力していきたい。</p> <p>【保護者の評価】</p> <p>「少人数授業、きめ細やかな指導、分かりやすい授業の工夫・研究」（44.3% 43.4% 44.9%）「放課後まなび舎教室・家庭学習計画表・補習などを通じて自学自習力の向上に努めている」（36.3% 42.1% 44.7%）など、学習活動においては取組みに対する肯定的評価が高まってきている。「わかりやすい授業の創造」の取組みが保護者の方にも評価していただいているととらえたい。しかし「読書活動に力を入れている」（38.2% 42.6% 40.2%）はやや下がった。生徒の評価で「朝の読書活動」についてもやや低下したことと合わせて、次年度読書活動に関しても、光小に移転した後も生徒が本に親しむ環境づくりをしていきたいと考える。</p> <p>今回、学校として一番注目し、今後の課題ととらえているのは支援教育に関してである。「支援教育の充実」に努めている（40.4% 40.5% 38.2%）がやや低下している。支援教育のあり方、また学びの場の検討を昨年度後半から行い、今年度を迎えたわけだが、保護者の方々の不安や心配が表れた結果だと感じる。この不安や心配がぬぐえるよう、支援教育の取組みをさらに充実させ、あわせて「わかりやすい授業の創造」を、大型TVを活用したり、黒板に書く字を見やすくしたりするなど、どの生徒にもわかりやすいというユニバーサルデザインの観点からもさらに進める必要があると考えている。</p> <p>【総合的】</p> <p>授業においては、一人一台タブレットを活用した授業も増え、大型テレビやプロジェクターなどを活用し、わかりやすく、生徒の興味関心を高める授業づくりは年々進んできていると考える。また、生徒の思考をはたらかせる授業にするため、SE事業も活用し、生徒の表現力の向上などを図るための工夫を、全教職員で取り組んできた。それらの成果が出てきており、生徒や保護者からも評価いただいていると思う。</p> <p>支援教育については、通級による指導がうまく機能するためにも、「通級による指導でどのような効果を期待するのか」を保護者とも話し合いながら進めていき、通級指導教室の運営方法を考えていくとともに、本来の通級教室による指導を充実させていきたいと考える。また、各普通学級での授業を、どの生徒にもわかりやすい授業とするため、ユニバーサルデザインの授業づくりをより推進していきたいと考える。</p>
学 校 協 議 会 委 員 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内研修推進委員会で計画された取組みを共有し、更にポイントを設定して「わかる授業」を押し進めた点や学力定着のための体制を整えたことは、土台作りとして素晴らしい取組みと思う。 ○ 学びに対しては、色々と工夫されて大変成果が表れている、引き続きよろしく願いいたします。 ● 支援教育の課題を挙げられているが、発達障害等により特別な教育的支援を必要とする生徒をはじめ、全ての生徒にとって、教室が安心・安全で、わかる喜びや学ぶ楽しさを味わうことのできる場所になるように、さらなる授業改善、環境整備を重ねていかれることを期待する。 ☆ 朝の読書活動についての評価が生徒・保護者ともに下がっているが、それぞれの教室での取り組みや工夫があるのかを聞いてみたい。次年度光風台小へ臨時移転することで、小学生に読み聞かせをしたりするなど読書の時間をともに過ごし、お互いの刺激になる機会があってもいいなと思う。 ☆ 支援教育に関する評価は、当該の生徒・保護者からのものの影響が大きいと思う。生徒本人への個々に応じた丁寧な対応は当然だが、保護者と対話する時間を大切にして、家庭と学校がともに生徒の生活や成長を支えられることを願う。 ☆ 4月より光風台小学校に移転するので、小学校との連携をより図り、義務教育学校へのスムーズな移行を図ってください。

2 高めあう学校

計 画	<p>1. 一致した方針のもとでのきめ細やかな指導</p> <p>①肯定的な子ども観を持ち、学級集団を把握し、生徒の行動の背景を知ることが大切を指導にあたる。</p> <p>②生徒に関する情報を共有し、生徒指導主事と児童生徒コーディネーターの連携を中心に、取組みのためのコーディネート機能を充実させる。</p> <p>③不登校を減らし、いじめの早期発見、早期解決をめざす。</p> <p>2. 生徒をエンパワーし、いじめを許さない集団づくり</p> <p>①いじめを許さない集団づくりをめざす。</p> <p>②部活動の指導では、クラブ活動運営方針のもと、明確な目標を設定し、指導を行う。</p> <p>③生徒会役員と学校協議会やPTA 役員との意見交流会を行い、課題解決に向けて学校総体として取り組む仕組みづくりを行う。</p> <p>④生徒のコミュニケーション力や社会性を高める機会を設ける。(様々な行事、取組みを通じて)</p>
取 組	<p>1の①②③について</p> <p>「子どもたちをしっかりと見る」ということを今年度も大事にした。子どもの変化を敏感に感じ取れるよう、全教職員で子どもたちを見守る体制作り、そして情報交換を密にした。</p> <p>今年度も毎朝の出欠状況が全教職員で把握できるように、職員室にホワイトボードを設置して一覧表を作成し、そこに学年団教師で記入をするようにした。それを見て、連絡なしに朝登校できていない生徒がいたら、すぐに担任、学年団教師で家庭に連絡を入れるようにすることにより、遅刻傾向のある生徒や休みがちの生徒への対応を迅速に行うことができた。また、朝の職員打合せでは、必要に応じて気になる生徒について、情報の交流を行った。</p> <p>定期的(原則毎週月曜日5時間目)に生徒指導連絡会(管理職、学年生指担当、養護教諭、児童生徒支援Co、栄養教諭、スクールカウンセラーで構成)を開催し、情報交換並びに支援策等を協議した。また、必要に応じてケース会議を開催し、外部機関(町福祉課、デイサービス事業所、池田子ども家庭センター、警察など)とも連携し対応にあたったケースもあった。多角的な視点から、そして外部機関の力を借りることで、子どもたちにとってよりよい生活環境の構築につなげた。</p> <p>昨年度に不登校傾向の生徒数が増えたこともあり、今年度は大阪府の不登校対策支援事業を受け、校内教育支援員の配置もしていただき、これまで以上にきめ細やかに対応することができた。特にカウンセリングルーム(別室 以下CRと表記)で過ごすことの多い生徒の対応は、生徒個々の状況に応じた対応をすることができた。CRの運営をつかさどる児童生徒支援コーディネーター(以下児生Co)とも連携し、CR利用生徒と学級をつなく働きもしてもらった。今年度も不登校傾向の生徒数は減少まではしていないが、新たに増えることもしていない。</p> <p>「子どもたちをしっかりと見る」ということでは、今年度は職員室内に「HAPPY TREE」と題して、教職員が見つけた生徒たちのよさを葉っぱの形をした用紙に書いていき、大きな木を描いた模造紙に張り付けていくという取組みも行った。生徒たちのよさを見つけるためには、当然ながらしっかりと生徒を見ていく必要があり、これまで以上に生徒を細やかに見る目が育まれ、また生徒を見る眼差しが温かくなったと感じる。</p> <p>2の①について</p> <p>今年度も道徳・総合・学活などを通じて、体験を重視し、生徒が主体的に取り組めるよう行事等を工夫し、生徒の自己有用感が高まるようにした。特に今年度は生徒指導主事がスクールカウンセラーの協力を得ながら、「心理教育」に取り組むことを企画し、学期ごとに各学級で「心理教育」に取り組んだ。「こころのメッセージをポジティブに変えて、気持ちの温度計を高めよう」や「自分の気持ちを相</p>

	<p>手に伝えよう」などのテーマで、生徒たちに相手の気持ちに思いを馳せたり、自分の気持ちをうまくコントロールしたりする方法などを学ぶ機会をつくった。校内に生徒が発案した「自分の気持ちをポジティブにしてくれるキャラクター」を展示するなど、温かい仲間づくりにつながる取組みを進めた。</p> <p>加えて、生徒の状況把握については、学期ごとに生徒にアンケートを実施し、いじめだけでなく体罰等についても把握に努めた。</p> <p>2の②について</p> <p>年度初めに、キャパ会議を経て学校の方針を伝え、それをもとに各クラブミーティングを行い、活動目標や方針を明確にした。今年度はコロナによる制限もほとんどなくなり、活動時間も十分にとることができた。陸上部が駅伝で近畿大会に出場するなど、大きな活躍もあった。教職員の負担は増やしたくないが、部活動で輝く生徒も多いので、部活動を大切な時間と位置づけ、今後も指導にあたりたい。</p> <p>2の③について</p> <p>10月に前期生徒会役員と学校協議会委員及びPTA役員との交流会を持ち、生徒が自分の考えを発表した後、意見交換を行った。生徒会活動の活性化を目的としているが、同性婚についてや男女の友情に関して、また外国語を勉強する意味などについて積極的に意見し、人生の先輩である地域の大人の方の意見を聞いたり、アドバイスをもらったりして活発な議論ができ、有意義な取組みとなった。</p> <p>2の④について</p> <p>今年度の生徒の大きな行事での活躍は素晴らしかった。「自尊感情の高揚」を2年前より最重要課題に掲げて取り組んできたが、大きな行事では、生徒が「自分らしく、自分に自信を持って、自分を表現する」ということをずっと求めてきた。それが今年度、見事に表現してくれたことに感動すら覚えている。そこには、生徒たちが主体的に互いにコミュニケーションを取り、自分たちで作っていった行事であったからこそ、見ているものの心を震わせるものになったと考えている。その他、校則の見直しなども行った。生徒会役員を中心に、生徒同士で議論を重ね、自分たちの生活をよりよくするための校則変更もいくつか行った。また、昨年度から実施している「スマホ教室」を今年度も2回実施し、地域に大きく貢献をした。そして生徒の自己有用感の高まりにつながり、「自尊感情の高揚」にもつながる有意義な取組みとして位置づいてきた。</p>
<p>評</p> <p>価</p>	<p>【生徒の評価】</p> <p>「学校へ行くのが楽しい」(57.7% 57.7% 56.8%)がほんの少し下がっている。肯定(B)評価まで加えると、昨年度より上がっている(Bまで加えると、前年度85.7%が今年度86.5%)のだが、この質問では(A)のみでも60%を超えたい(Bを加えると90%を超えたい)。生徒たちの活躍できる場をさらに増やす努力をしたい。「命の大切さ、社会のルール大切さ、人権の大切さについて学んだり考えたりするように指導している」(67.1% 66.8% 64.6%)も少し下がっている。今後に向けてはこれまで以上に人権教育の推進が必要と考えている。「基本的な生活習慣の確立に力を入れている」(54.4% 52.1% 55.2%)「あいさつはできていると思う」(56.3% 51.6% 53.7%)「いじめや悩みや困っていることに対応しようとしている」(64.2% 52.7% 58.1%)については昨年度より上昇し、ますますの結果であった。</p> <p>また、「将来の夢や目標を持っている」(47.6% 39.6% 48.4%)が大きく伸びたのはたいへんうれしい。しかし、「人の役に立てる人間になりたい」(73.8% 64.2% 64.2%)「先生は将来の夢や目標について考える機会をつくっている」(50.9% 42.8% 41.1%)は少し伸び悩んでいる。自尊感情の高揚にかかわる質問項目であるが、学校の生活アンケートなどでは「自分にはよいところがある」など自己肯定感に関する質問などでかなり数値が上がってきている。数値だけで測れるものではないと考えるが、生徒たちの自尊感情は間違いなく高揚してきている。今後は「将来の夢や目標」「人の役に立つ」などの質問に対する数値にも表れるように、生き方や働き方などを学ぶキャリア教育の取組みや体験的な学習などの教科にも注力していきたい。</p>

	<p>【保護者の評価】</p> <p>「学校へ行くのが楽しいと言っている」(51.7% 47.5% 48.3%)は、昨年度より上昇した。生徒の評価と同様にさらに伸ばしたいと考えている。生徒が楽しく学校に通い、毎日イキイキと過ごしているほど保護者の方にとってうれしいことはないであろうし、何より学校への信頼感が高まることにつながる。生徒が活躍する場面を増やしていきたい。「基本的生活習慣の確立に力を入れている」(40.6% 48.0% 45.7%)「命、社会のルール、人権の大切さについての指導を行っている」(32.6% 47.5% 45.7%)「いじめなど困っていることに耳を傾け対応している」(34.1% 39.8% 38.5%)については、昨年度よりはやや下がっている。真摯に受け止め、どの項目も50%を超える評価をいただけるよう、取組みを強化していきたい。</p> <p>【総括的】</p> <p>生徒の「自尊感情の高揚」を最重要課題として取り組んできた中、あらゆる場面、また調査結果からかなり課題の克服が感じられてはきている。しかし、このような調査結果での数値にももう少しこだわっていきたくて今回の結果から感じた。特に「学校が楽しい」とこたえる生徒の割合をさらに伸ばしたい。そう感じる生徒が増えることが、保護者の方々の学校への信頼にもつながる。今後の課題として、誰もが安心して生活できる、居場所がある、一人ひとりが大事にされる学校と生徒たちが思えるように取組みの強化を図っていききたい。特に人権教育並びに道徳教育の推進に力を入れたいと考えている。中でも人権教育(キャリア教育も含む)については、これまでも本校で進めてきているが、教育指導計画や学校教育方針にも明確に記し、教職員の意識をさらに高めて進めていきたいと考えている。そのうえで、さらなる生徒の自尊感情の高揚を図っていききたい。</p>
<p>学 校 協 議 会 委 員 評 価</p>	<p>○ 「自分の気持ちをポジティブにしてくれるキャラクター」の掲示は、誰もが目にする機会があり、自分の内面を見つめる良いきっかけになっていると思う。</p> <p>○ 言葉だけでなく「HAPPY TREE」など具体的に可視化して、生徒をきめ細かく見つめ育んでいるところに、先生方の本気度が感じられる。 それが、生徒の自尊感情を高めることにもつながっていると思う。</p> <p>○ 部活動に対し、生徒とかわる大切な時間であるのとらえ、丁寧に対応される先生方の姿が頼もしいと感じる。生徒の可能性を引き出し、生き生きと活動できる指導に期待したい。</p> <p>○ 「スマホ教室」やハニタスの活動など、学校内にとどまらず地域で活躍する中学生の姿が見られたのはよかった。地域の一員としての自覚が生徒の成長にとって大切であり、自尊感情の高揚にもつながると思う。</p> <p>● 一番の問題は、「学校へ行くのが楽しい」が少し下がっている事だと思います。 楽しい授業、楽しい行事が行えるように頑張ってください。</p> <p>☆ 「自分の気持ちをポジティブにしてくれるキャラクター」の取組みはとても興味ある取組みだと思う。廊下に掲示しておくだけでなく、少し修正を加えて、いくつかを吉川中学校の公式キャラクターとして、ホームページや生徒会の横断幕など目立つところに掲示して、地域にもアピールしていけばよいのではないのでしょうか。(電子データ化しておけば、活用範囲がぐっと増えます。)</p> <p>☆ 不登校の生徒がある一定数いることへの対応として、タブレットを活用することを考えてもいいのではないか。教員の負担増になるので、地域の人材活用などは考えられないだろうか。町教育委員会と連携しながらうまく活用できないでしょうか。</p> <p>☆ 「スマホ教室」などの取組みは、これからの豊能町にとって非常に大切な取組みとなっていくのではないのでしょうか。豊能町は高齢化率がどんどん上がり、今まで続けられてきた活動が縮小せざるを得ない状況になったとき、子ども達との交流から生まれる新しい活動が、文化都市豊能町の将来の在り方を考える一助になるのではないのでしょうか。</p>

3 地域に愛され、前向きで安心できる学校

計 画	<p>1. 安全で規律ある学校づくり</p> <p>①学習規律、生活規律など基本的な生活習慣の確立に力を入れる。 ②防犯訓練や避難訓練など、複数回実施し、非常時の対応力育成に取り組む。</p> <p>2. 学ぶ意欲を引き出す学習環境</p> <p>○掲示物や作品展示の工夫をしたり、生徒や保護者の要望等を十分に受け止めたりして、生徒の学ぶ意欲を引き出す努力を続ける。</p> <p>3. 危機管理の徹底（報告・連絡・相談・点検の徹底）</p> <p>①コンプライアンスの徹底を図る ②学校情報の透明化を図り、積極的な発信に努める。</p> <p>4. 誇りと責任感に根ざす学校風土の醸成</p> <p>○教職員間で学校に対する誇りと取組みに対する責任感、使命感を共有していく</p> <p>5. 可能性を伸ばす幅広い教育活動</p> <p>○行事、部活動、委員会活動や地域と連携した取組みなどを通し、生徒の可能性を伸ばしていく。</p>
取 組	<p>1について</p> <p>学習規律については、学習内容をしっかり身につけるための基盤として、年度当初から各学級そして各授業で、生徒たちに指導をしてきた。しかし、経験の浅い教員の授業では、一部授業規律が保たれていない場面も見受けられた。生徒たちの学びに向かう姿勢を醸成する意味でも、全教職員で授業規律については意思統一して取り組む必要性を感じている。生活規律なども概ねできていたが、教職員による指導ということで見ると、足並みがそろっていない部分があった。今後の課題としたい。</p> <p>避難訓練は春と秋に、地震を想定したものと火災を想定したものの2回を実施することができた。また犯罪防止教室や薬物乱用防止教室などは計画通り実施できた。次年度からは光風台小学校へ移転するので、小学校との合同訓練ができればと考えている。</p> <p>2について</p> <p>今年度は展示週間を設けたのに加えて、できる限り生徒の授業での作品や委員会のポスターなどを意識的に数多く展示することを心がけた。生徒会の企画で掲示物をつくったり、また生徒会から地域に発信するために設置した校門の掲示板でも、スマホ教室を始め、生徒会の取組や生徒の活躍を通信等を掲示したりすることに努めた。これらは間違いなく生徒の学ぶ意欲の高揚につながったし、生徒の頑張りを地域や保護者にも発信することができた。</p> <p>3について</p> <p>教育公務員としてのコンプライアンスについては、年度初めに「めざす教員像」を提示するとともに、定期的に職員会議等で指導した。そして今年度は1学期当初に、教職員向けの校長室通信「情熱」で、コンプライアンスの徹底を図り、不祥事の根絶に向けても校長より教職員に講義を行った。また、今年度も「笑顔で会える学校 吉川中学校ガイドライン」を作成し、4月1日に教職員に配布し、内容の確認を行った。全教職員で共有し、意思統一を図って今年度のスタートを切った。そして、校内の安全点検を年3回教員による全校一斉点検と日常の清掃時間での点検を行い、工事等の必要な危険箇所については、教育委員会に依頼した。</p> <p>積極的な情報発信ということでは、「学校だより」「学年だより」「学級通信」「進路通信」「保健だより」「図書だより」「食育だより」などを発行した。今年度も情報の積極的な発信に努めるため、「学校だより」を月2回の発行に増やし、加えてホームページでの発信にも注力した。特に「校長室から（校長ブログ）」を週2回（原則月曜と木曜）に更新し、日ごろの生徒たちの様子を保護者の方や地域にもみていただけるようにした。</p> <p>4, 5について</p> <p>教職員間で学校に対する誇りと取組みに対する責任感、使命感を共有していくということについては、校長より職員会議や職員朝会など、機会があるときに幾度となく話をした。また、学年の実態交流や、行事等での振り返りなどを通じて、教職員間で互いの取組みなどを交流し、教職員が自己有用感を感じ、あわせて責任感や使命感を強くするよう心がけた。今年度はSE担当教員が、積極的に多くの教</p>

	<p>員の授業を参観し、参観した授業の学ぶべき点や教員の授業での工夫等を発信してくれたので、授業づくりの交流も進み、授業に関する教職員間での会話も増えた。</p> <p>行事、部活動、委員会活動など、生徒が失敗を恐れずにいろいろなことにチャレンジするような雰囲気づくりにも引き続き注力した。できる限り生徒で考え議論させ、ことを進めるようにした。生徒会役員が中心となり、校則の見直しを進めた取組みは、実際に校則の変更にもつながり、生徒たちにとって、達成感が感じられ、自信のつく取組みとなった。加えて、今年度も「中学生によるスマホ教室」を2回開催したが、地域の高齢者の方々に大変喜ばれ、そして今年度も新聞にも取り上げられ、生徒の自尊心の高揚につながった。「スマホ教室」については、昨年度にテレビで全国放送されたこともあり、他県からの問い合わせもあり、学校としても誇らしい取組みに発展してきた。</p>
<p style="text-align: center;">評 価</p>	<p>【生徒の評価】</p> <p>「基本的な生活習慣の確立に力を入れている」(54.4% 52.1% 55.2%)は少し上昇した。2学期、特に体育大会後に少し生活規律の乱れが感じられたこともあり、教職員で生徒指導面での強化を図ったこともあっての結果ではないだろうか。ただ「命、社会のルール、人権の大切さについて学んでいる」(67.1% 66.8% 64.6%)が、少しずつ低下している。日ごろの取組みも含め、道徳教育や人権教育の取組の強化も課題としたい。安全で規律ある学校をめざしている中で、生徒たちの意識の変化を数字上でも注視していきたい。生徒会中心に「校則の見直し」を進めているが、生徒たちに自らの問題として「学校生活をよりよくするために考える」機会を増やしていき、安全に対する意識を高め、規律ある行動をこれからも求めていきたい。</p> <p>「学校は『学校だより』等通じて情報を発信している」(70.8% 61.2% 62.2%)「『学校だより』等を読んでいる」(26.6% 25.7% 29.7%)であった。今年度も学校からの情報発信は積極的に行ってきた。生徒の評価は昨年度より少し伸びている。読み手を意識した紙面づくりの成果が少しずつ出てきているととらえたい。</p> <p>「給食は適切に実施されている」(42.9% 47.3% 51.0%)は、完全肯定(A)がついに50%を超えた。栄養士を中心に取り組んできたこれまでの成果が表れていると感じる。デリバリー方式による給食を開始した平成26年度には、この肯定的回答が10%にも達しない状況であったことを考えると、栄養士の努力に加え、他の教職員の努力、生徒会の努力、そして業者の努力と、多くの努力の結果が成果として表れたと感激している。</p> <p>【保護者の評価】</p> <p>「学校は基本的な生活習慣の確立に力を入れている」(40.6% 48.0% 45.7%)「命、社会のルール、人権の大切さについて指導している」(32.6% 47.5% 45.7%)と、昨年度に比べるとやや下がってはいるが、保護者の方々には、概ね安全で規律のある学校をめざしての取組みを肯定的に見てくださっている割合が高いと感じている。</p> <p>「学校は教育方針や活動を分かりやすく伝えている」(41.0% 40.9% 41.8%)「学校は情報発信や連絡・情報提供を行っている」(60.1% 59.1% 60.1%)は昨年度より少し上昇した。また、「子どもを通じて情報は保護者に届いている」(53.5% 49.0% 46.6%)はやや低下した。しかし、この3項目はB評価まで加えた肯定的評価で見ると、上昇と低下がA評価だけのものと逆転する結果となった。よって成果が出ているかどうかを判断しにくいところではあるが、学校情報の透明化を図るためにも、発信については「より積極的に」をモットーに、中身の工夫にも力を入れていきたい。</p> <p>「給食は適切に実施されている」(39.8% 44.2% 46.9%)と、年々大きく評価が上がってきている。以前多かった給食への不満などのマイナスイメージは、ほまほましょくされてきたと感じている。給食開始時の平成26年度には5%にも達しなかったように、生徒以上に厳しい評価であった保護者の方からも高評価をいただくようになったことはうれしい。</p> <p>「施設・設備の安全管理を適切に行っている」(30.0% 27.2% 31.6%)については、施設の老朽化に伴い、安全性を心配されている保護者も少なくない中、昨年度よりは高い評価をいただいた。来年度からは光風台小学校に移転しての生活になるが、安全面については点検を怠らず、しっかり保ってきたい。</p> <p>「生徒の健康管理に努めようとしている」(28.0% 45.2% 47.1%)は昨年度よりも高い評価をい</p>

	<p>ただいた。コロナがら類になった後も、保健だよりや食育だより等で健康管理に関する情報を発信したり、感染症予防に向けた手洗いやうがいの励行や、換気をこまめにしたりするなど、日々生徒の健康には気を配った取組みを評価いただいたと感じている。</p> <p>【総括的】</p> <p>安全で規律ある学校づくりを進めている。昨年度は生徒にその意識が低いことを課題と考えていた。より自分事として考えさせ、自分たちで自分たちの生活をよりよいものにする意識の醸成が必要と考え、校則の見直しなど、生徒が主体となって取組みを進めるようにしてきた。その成果は少しずつ表れてきていると感じている。今後も取組みを推進したい。</p> <p>学校からの情報発信は、さらなる工夫の必要性を感じている。昨年度から発信頻度を増やしたり、ホームページ（以下HP）による発信にも注力したりしてきている割には、評価があがっていない（決して悪い評価ではないが…）。特にHPが見にくい作りになっていることもあり、HPの形式等の改善に向けて、町教育委員会にも要望していきたい。またHPを見てもらえるような工夫を現在施しているところである。</p> <p>その他、給食の取組み、生徒の健康管理等の取組みについても高い評価をいただけているので、光風台小学校に移転する来年度からも、取組みを緩めることなく続けていきたい。</p> <p>地域に愛される学校をさらに意識したい。本校生徒に、地域に貢献できるような活動をさせたい。定着してきた「中学生のスマホ教室」は、マスコミにも取り上げられ、実際に地域の方々に元気を与え、そして町の活性化にも大きく貢献している。このような取組みを継続発展させていき、生徒たちの自尊心の高揚につなげ、生徒だけでなく、教職員にも誇りと責任感を植え付けていきたいと考えている。</p>
<p>学 校 協 議 会 委 員 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 給食の肯定意見が、開始時点より非常に上がったのは教職員、業者、そして生徒会の取り組みの成果だと思います。4月から自校式の給食になりますが本当に頭の下がる思いです。 ○ 色々な分野の情報発信を、保護者の方はよくご覧になり学校の様子が伝わっていると思う。生徒の方は、低い率なのか残念だが、学校のことがよくわかっているから、あえて読まないのかなと推測している。 ○ 給食の肯定率の上昇は、地道な努力の表れと思う。 ○ 学校だよりや校長ブログの掲載など、多くの情報を積極的に発信されていることは、素晴らしいことだと思う。 ● 積極的な情報発信について、部活動についての情報が少ないように感じる。部活、顧問の先生によって差がかなりあると思うので、差がないようにしていただきたい。 ☆ 宿泊学習中における学校からの情報が何もなく、子どもたちが帰宅するまで一切わからない。予定通り進んでいるのかなど、メールで発信できるのではないかとと思う。 ☆ HPでの情報発信は、個人情報保護や生徒の安全上の理由などの観点からリアルタイムではなく、また抽象的な書き方にならざるを得ない場合があるが、登録メールであれば、かなり踏み込んだ発信が可能となるのではないかと。今後の情報発信の仕方を考える時期にしているように思う。 ☆ 次年度光風台小学校へ通うことになるため、生徒たちの通学経路が大きく変わる。交通安全・防犯の意識を家庭と共有し、安心して通学できるよう指導してほしい。 ☆ 自然災害やスマホにまつわる危険から生徒を守る訓練や正しい情報・使い方を折にふれお願したい。

4 ともに育つ地域・校種間連携

計 画	<p>1. 多様な資源を生かした地域連携と地域に信頼される学校づくり</p> <p>①地域等のボランティアとPTAの支援を積極的に活用して、学力向上や学習の充実、さらには部活動の充実などに取り組む。</p> <p>②公開授業を実施する。</p> <p>③学校協議会では、学校が保護者や地域住民等の信頼にこたえ、家庭や地域と連携・協力し、一体となって生徒たちの健やかな成長を図るために、様々な視点の幅広い意見を求めるとともに、学校関係者評価に取り組む。</p> <p>2. 明確な目的を持った校種間連携</p> <p>○令和8年度の義務教育学校開校を見据え、小中連携を積極的に進めていく。</p>
取 組	<p>1の①について</p> <p>1年生では次年度の職場体験学習に向けて、地域の事業所の方数名にお越しいただき、生徒にお話をさせていただいて、仕事をするとはどういうことなのかなどを学ぶ学習ができた。またクラブ活動では複数のクラブで、外部指導者にかなりの時間を指導いただいた。その他、地域のボランティアの方に中庭の花植えを手伝っていただいたり、学校敷地内の草刈りをお願いしたりなど、地域の方に協力いただける場面ではお願いした。そして、今年度は4年ぶりに「ふれあいのつどい」を本校で開催し、多くの地域の方に来場いただいた。「ふれあいのつどい」ではオープニングや体育館での催しものの司会進行などを本校吹奏楽部が行い、そして第3回目となる「スマホ教室」も開催し、多くの方々に喜んでいただいた。</p> <p>加えて、10月からは町役場とタイアップして、「ハニタスマるごとぬる」のイベントを実施し、町を走るハニタス号のペイントを本校生徒が中心となって行った。芸術家の方の指導のもと、町役場の職員の方や阪急バスの職員の方々とも協力し、この取組みも多くの地域の方に喜んでいただけた。そしてその1週間後に第4回目の「スマホ教室」を開催したが、予想以上に来場があり、その時も生徒たちの活躍が光った。この「ハニタスマるごとぬる」と「スマホ教室」の様子は新聞にも取り上げていただき、町に活気を与える取組みとなった。</p> <p>1の②について</p> <p>10月末に公開授業を実施し、多くの保護者にお越しいいただいた。また、12月1日のSEの公開授業では、町内はもちろんのこと、箕面市や豊中市などからも参加があり、多くの先生方に参観をいただいた。</p> <p>1の③について</p> <p>学校協議会を開催し、学校の情報を伝え、ご意見を頂いた。また、10月には学校協議会委員とPTA役員による生徒会役員との懇談会を実施し、直接、生徒会役員へアドバイスをいただくことができた。</p> <p>2について</p> <p>毎月のように開催された学校運営協議会（開校準備委員会）では、令和8年開校予定の義務教育学校に向けて、今年度も標準服や校名、校章、校歌の検討だけでなく、学校のランドデザイン等の作成に向けて、各検討部会も含めて熱心に議論を進めた。また、西地区の4校（本校、東ときわ台小、光風台小、吉川小）の教職員で、自主合同研修会を2度開催した。今年度は西地区の子ども実態を共有し、新学校の教育目標等の作成に向けて、4校の教職員が熱心に議論を進めた。学校教育目標などは、今後は各校の首席を中心に固めていき、最終は4校の管理職で今年度中に決定する予定にしている。</p>
評	<p>【生徒の評価】</p> <p>「学校行事はみんなが楽しく、そしてがんばって取り組めるようになってきている」（68.0% 60.0% 68.9%）は、昨年度に比べ大きく上昇した。特に合唱発表会や体育大会での活躍は素晴らしいものがあつた。見ていて生徒たちの雰囲気がとても良かった。どの生徒も伸び伸び自分を表現できており、居心地のよい学級・学年集団になってきていると感じている。</p>

<p>価</p>	<p>地域との連携や校種間連携に関する成果指標となるようなアンケート項目はないが、例えば「スマホ教室」などは、地域貢献の意味も含めて、地域とつながり、生徒たちがやりがいを感じる取り組みとなり、今後も継続していく考えである。地域からのニーズも高く、生徒の自己有用感を育む素晴らしい取り組みとして、本校の看板行事の一つとして位置付けたい。</p> <p>【保護者の評価】</p> <p>「学校は合唱発表会、体育大会などの学校・学年行事等に生徒が前向きに取り組むよう指導している。」(33.0% 61.4% 66.8%)と、昨年度以上に高い評価をいただいた。合唱発表会や体育大会など、行事での子どもたちの躍動する姿を見ていただき、このような評価をいただいたと思う。生徒たちが楽しそうに前向きに取り組む姿に、保護者の方々も安心してくださり、喜んでくださったと感じている。</p> <p>「地域人材の活用に努めている」(56.3% 40.3% 44.2%)と、昨年度よりも高い評価をいただいた。地域の方々から花壇の整備をしていただいたり、草刈りをしていただいたり、できるところで地域の方々からお力をお借りした。そして、「ふれあいのつどい」で多くの地域の方々とのふれあえたことは有意義であった。部活動でも、複数のクラブが外部指導者にお世話になっている。部活動での外部指導者の活用等の発信が十分できていないのは昨年からの反省事項である。今後、HPも活用しながら、地域人材の活用についても発信を増やしたい。</p> <p>【総括的】</p> <p>地域との連携、地域に貢献する取り組みということでは、大きく進めることができた1年であったと思う。この取り組みを、光風台小学校に移転してからも継続できるように、工夫を凝らしながら進めていきたいと考える。次年度から小学生とともに生活することをプラスにとらえ、小学校とも連携して、地域と連携し、地域に貢献できる取り組みができればと思う。</p> <p>課題としては、情報発信を積極的に行い、地域の方々にも「地域の学校」として親しんでいただき、愛される学校にするためにはどうすればよいかを探っていきたい。「スマホ教室」の取り組みなどをベースにしながら、さらに地域とつながる取り組みができるよう努力していきたい。</p>
<p>学 校 協 議 会 委 員 評 価</p>	<p>○ 4年ぶりに開催できた「ふれあいのつどい」での自主的な生徒の活動には感動した。中学生ならではの感性や輝きが地域の大人や子どもたちに与える影響は大きいと思う。次年度の光風台小学校で過ごす機会を利用して、小学生の憧れの存在になれるよう、中学生の力を発揮できる場を地域と協力して提供してほしい。</p> <p>○ 「スマホ教室」の取り組みは、素晴らしい企画である。地域貢献と同時に生徒本人の自信にもつながったと確信している。</p> <p>○ スマホ教室は生徒たちもやりがいを感じたと思うのでぜひ続けていただきたい。光風台小学校に移転するにあたり、スマホ教室も光小で行われる機会もあると思う。これを機に地区ごと（吉川、東ときわ台など）にスマホ教室を開催するなど、さらに発展していくことを期待している。</p> <p>● あと2年で小中一貫校になることを踏まえると、もっと思い切った小中連携があってもよいのではないかと思う。</p> <p>☆ 吉川小学校は学校だよりを校区内に回覧されていますが、中学校も学内の様子、行事等を地域の人々に知らせ外部指導者やボランティアの募集をしてはどうですか？</p> <p>☆ 合唱発表会や体育大会などの学校行事を小学校の高学年にも是非見せていただきたい。来年度から臨時的に光風台小学校の敷地に移転するが、吉川小学校や東ときわ台小学校の児童にも見学の機会があれば思う。</p> <p>☆ 来年度は、小中一貫校に向けて小学校5・6年生の中学校での授業を実現していただければと思う。（吉川小学校と東ときわ台小学校の児童を光風台小学校に運ぶことにより実現可能）</p>

5 双方向な家庭とのかかわり

計 画	<p>1. 家庭とのパートナーシップの推進</p> <p>○生徒の家庭背景をできる限り把握することに努める。 ○保護者の生活や子どもへの思いを知り、信頼関係をつくっていく。 ○保護者の抱えるしんどさや、悩みに耳を傾ける。 ○保護者とともに子どもを育てるという姿勢を持つ。</p> <p>2. 学習習慣を促す働きかけ</p> <p>○学校からの便りや懇談などの機会を生かし、家庭での学習習慣形成に向けて保護者の協力をお願いしていく。また生徒の携帯電話やスマホなどの使い方についても、保護者とともを考えていく。</p>
取 組	<p>1について</p> <p>今年度はコロナもかなり落ち着いたので、年度当初に計画していた1年生の家庭訪問や、2,3年生の懇談をようやく実施することができた。1年生は1学級の人数が多く担任はたいへんだったが、家庭訪問は生徒の家庭背景を知る意味でとても大きな意味があり、また2,3年生も希望制ではあるが懇談が実施でき、保護者との連携を図っていくうえでも大変有意義であった。</p> <p>家庭との連携、保護者の思いを受け止めるということでは、今年度も支援教育関係の取組みで連携を密にした。昨年度後半に時間をかけて学びの場の検討を行い、支援学級に在籍する生徒が3分の1に減り、その影響で通級教室での指導を希望する生徒が急増した。学びの場の変更で十分に支援をしてもらえるのだろうかという生徒並びに保護者の不安が大きく、学校としては支援員の力も借りながら、全教職員で支援教育を支える体制をつくり進めてきた。その中で例年以上に家庭との連携を図ってきたつもりであるが、生徒や保護者の不安は完全にもぬぐえていない。支援体制づくりも含め、今後の大きな課題の一つである。</p> <p>その他、担任を中心に家庭との連絡を密にしてきた。生徒指導上等、必要に応じて家庭訪問をしたり、保護者の方に来校願ったりして、「保護者とともに」の意識で一年間連携を図った。</p> <p>2について</p> <p>家庭での学習習慣形成に向けては、学校だよりや学年、学級だより等でも保護者への協力を呼びかけ、また学年懇談や個人懇談時に協力をお願いしてきた。家庭での学習習慣は個人差があるが、全般的には家庭学習の時間も比較的長く、保護者の方がその環境をつくってくださっていると感謝している。今後も連携しながら進めていきたい。</p> <p>今年度、家庭学習を進めるために、町の方針として「自学ノート」の取組みの推奨があり、本校でも各教科等で生徒に呼びかけていったが、本校は言われなくとも工夫したノートの作成ができている生徒も多く、自学自習力は全国学力調査でのアンケート結果などからも高い結果となっている。しかし、自学が苦手な生徒も少なからずいるので、家庭学習の進め方や、家庭学習につながる授業づくり等の研究も今後は進めていきたい。</p> <p>家庭学習につながる課題としては、本校も、家庭でスマホでの友人とのやり取りやゲームに、長時間費やしている生徒の割合が高い。SNSによるトラブルもいづらか発生している。今年度中に着手したかったこととして、生徒会を中心に「スマホの使い方のルール作り」がある。生徒指導部と学習指導部が連携し、一人一台貸与のタブレットの使い方のルールとも合わせて生徒に考えさせたかったが、進められていない。次年度から光小に移転することもあり、今後は小学生も巻き込んで、児童・生徒にルール作りをさせていき、スマホの使い方、そしてタブレットの適切な使い方について考えさせていきたい。「中学生によるスマホ教室」も今後も継続して実施していくことにしているので、よりよいスマホやネットとの付き合い方を考えさせたい。その時にはぜひPTAの協力も得ながら進められたらと考えている。</p>
評	<p>【生徒の評価・保護者の評価】</p> <p>家庭との連携に関して、生徒の評価を見るためのアンケート項目等がないので、生徒の評価という点では記述できないが、保護者に対するアンケートでは、「家庭では子どもとふれあう時間をつくらうとしている」(59.1% 51.0% 54.6%)「家庭では進路について相談する時間を大切にしている。」</p>

<p>価</p>	<p>(55.7% 52.0% 56.0%)であった。どちらも昨年度より少し上がっており、肯定(A)評価が50%を超える高い値であった。本校は、家庭での子どもとのふれあいの時間は大切に考えてくださっている保護者の方が多いようで、たいへんうれしく感じている。保護者の方が前向きに生徒たちと接して下さっている土壌があるだけに、家庭との連携には今後も注力し、学校での課題等も保護者とともに克服できるように積極的に情報発信もしていきたいと考える。</p> <p>【総括的】</p> <p>家庭との連携を大事にしたいと考え、まずは学校から家庭への発信をしなければならないと考え、各種学校からのたよりに加えて、昨年度からはHPの活用など、発信には注力してきた。そのことについて、保護者からは概ね好評価をいただいているが、HPの周知等、さらなる工夫が必要と考えている。</p> <p>本校の保護者の方々は、アンケート結果などを見ている、学校の取組みには概ね理解を示して下さっており、前向きに協力もしてくださっている。ただ、表には出しておられないだけで本音の部分では、心配や不安に思っておられること、学校に対しても要望したいことなど、多く抱えておられるように感じる。それだけに、学校としては、今の状況に安堵せず、保護者の思いをもっと受け止めようとする姿勢が必要と感じている。</p> <p>家庭では生徒と触れ合う時間を大切に考えてくださっており、生徒が安心して学校での活動に取り組む基盤となる部分をしっかりと作ってくださっていると感謝している。ただ経験の浅い教職員が増える中、本校での勤務経験しかない教員も多く、家庭の協力を得やすい本校の状況を当たり前のよう感じている実態もある。それだけに家庭への働きかけが以前に比べると弱まっている感もあり、今後の課題と感じている。学校が家庭に寄り添うという姿勢を、これまで以上に見せていく必要があると考えている。</p> <p>学習習慣という点でも、子どもたちがスマホやゲームに注ぐ時間が増え、学習習慣に悪影響が出ている子どもも多い。これは本校だけでなく、豊能町全体の課題でもある。この課題克服に向けては、これから家庭との連携が鍵になると考える。今年度進めることができていないので、スマホの使い方についての家庭との連携による取組み、加えて生徒会を中心に生徒たち自身に使い方を考えさせる取組みを、次年度以降は進めていきたいと考えている。</p>
<p>学校 協 議 会 委 員 評 価</p>	<p>○ HPでの情報発信は、とても増えたと思う。大変時間がかかることと思うが、続けていただきたい。ただ、多くの思いがあるので、どうしても文字が多くなっていることが見受けられます。空白の利用方法なども考えられたらと思う。</p> <p>● スマホの使用に関しては、電車に乗ると7割位の乗客がスマホを使用している現代、指導はなかなか難しい所がありますが適切な対応して頂きたいです。</p> <p>● 学校が楽しくないと思っている生徒や学校を休みがちな生徒の家庭とは、特に連携を深めてきめ細かい対応をお願いしたい。</p> <p>☆ 生徒会中心の「スマホの使い方のルール作り」をぜひ家庭とも連携して進めてほしい。生徒には、依存の状態になってしまうまでに、スマホやゲーム以外の体験や時間の使い方、心と体を成長させてほしい。</p> <p>☆ 消防署と連携して初期消火訓練・普通救命講習、豊能警察とは交通安全指導・スマホによる詐欺サイトの注意などを実施して頂きたい。</p> <p>☆ 来年度は、ぜひ、生徒会と児童会の合同会議で、「スマホの使い方のルール作り」を行い、家庭とも連携してそのルールを実行してほしい。</p>